

令和3年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

□目指す学校・基本領域

[1] 建学の理念に基づく学校づくり

- (1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」の本校における今日的意義を探り、アイデンティティを確立し、普遍的価値を持つ学校目標を定める。これを「スクールポリシー」として明示できるよう策定する。
- (2) 学校目標「スクールポリシー」に沿い、教育方針を策定し、生徒、保護者、地域へ周知し、浸透を図る。特に年度当初に明確に提示し、学校評価と連動させる。

[2] コースの充実

コースのコンセプト及びコース目標を基に、各コース委員会を中心に、次期学習指導要領改訂を見据えて教育活動を具体化し推進する。これをアドミッションポリシーとして広報していく。

- (1) グローバル商大コースでは、昨年度より実施しているリメディアル教育を含む低学力者への対応、また、本年度より開始した進路意識が高い生徒への進学対策「まな部」への検証を行い、より良いプログラムとすることに取り組む。また、国際社会の一員としての視点を育むことができるような取り組みを検討する。その際に、ALTに依頼している授業の妥当性について検証する。2年次からの進学クラス編成については、継続協議とする。
- (2) 文理進学コースでは、3年生が2018年度より改訂したカリキュラムで学ぶ二期生であり、放課後授業、学期末授業、二次試験対策の補習などを通して、学力向上・進路目標達成を図る。学習量・学習時間増加を柱とする指導について検証を行い、一期生で実践した自学自習の習慣の育成、さらに内発的動機付けの醸成という観点から、O F I Xプログラムなどのイベントの効果等を検証し、積極的に導入していく。これは退学率の低下策としても有効であると考えられる。大学入学共通テストを含む高大接続改革について、指定校推薦の可否も含め、柔軟で丁寧な対応をおこなう。教科担当者会議を定期的に開催し、常に到達度を意識する。また、読解力養成について新たな方策を考える。
- (3) デザイン美術コースは、国公立大学合格を視野に入れたグローバル商大コースと協働した進路対策“まな部”を継続して実施する。デッサン力の育成という基本的な方針に沿って、2020年度から実施している放課後授業について、検証し、効果的に運営する。また、これらを専願受験希望者増に繋がる施策として広報活動を行う。2020年度縮小を余儀なくされた神戸芸術工科大学との連携授業については、大学と協議の上、再度実施する。
- (4) スポーツ専修コースは、引き続き3クラス体制とする。コース生としての意識を高め、プライドを持つ指導を強化する。また、しっかりと学習に取り組む姿勢を大切にする。剣道部での女子勧誘を本格化させ、コースの女子生徒増を図る。2020年度から実施されるカリキュラムについては確定したが、総合的な探求の時間やスポーツ演習の内容について、検討を進めていく。また、社会的に問題となっているクラブの活動時間の問題や指導者の勤務等への対応を考え、一部先行的に実施する。

2. 中間的目標

□学習指導構想

[1] 生徒の学習状況の把握と対応

- (1) 教科会及び教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、以後の授業に反映する。一年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。
- (2) 主体的で対話的な学びに関し研究を深め、グループワークなどの導入を図る。
- (3) 2019年度より実施している学力不振者への、入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を検証し、継続して実施する。

[2] 教科教育活動の充実

- (1) 授業内容を精選し、一時間一時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりと知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、教科会で「思考コード」の考え方をを用いて考査の評価を行い、知識偏重から脱することを目指す。
- (2) グローバル商大コースを中心に実用英語検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定（P検）など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。
- (3) 学習指導要領改訂に伴う先行実施分について、既に家庭科等で対応しているが、実施状況を確認する。
- (4) 既に導入済みのスタディサプリについては休校時の家庭学習教材として活用することができた。さらに、通常の授業時においても補助ツールとして活用していく。

□生活指導構想

[1] 基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成

- (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続ける。つまり問題事象の発生を未然に防ぐ「予防的な指導」を目指す。特に自尊心を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持てるようにする。
- (2) 教職員全員で、生活指導を行うという意識を徹底する。
- (3) 校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。生活指導週間を有効に活用する。
- (4) 改定した目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。
- (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。
- (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用やスマホ依存教育など社会人としてのマナーを養う講座を行う。

[2] 帰属意識の高揚

- (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。体育祭については、熱中症対策、雨天対策として、外部体育館利用の方向で検討する。
- (2) 学年や自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。
- (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行うとともに、校外での練習場所の確保、施設設備の改善、これに必要な予算措置など支援する方策を実施する。
- (4) 北海道修学旅行を実施するが、多い生徒数を鑑みて、3班編成での実施を前提に計画する。また、本年度で旅行先変更後4年となるため、総括を行う。

[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善

- (1) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別支援教育コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。対象生徒の中学時の支援計画を参考に継続指導できるように中学校との連携を強化する。大阪府私立中学校高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座が開催された場合には、教員を派遣する。
- (2) 不登校生徒に関する教務内規を見直した効果を検証する。また、新しいサポートルーム運営体制の検証を行う。カウンセラーの勤務時間を実態に合わせた形で調整する。
- (3) 保健委員会を中心に発達障害や不登校生について生徒理解を深めていく。さらに、一学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。

□進路指導構想

[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上

- (1) 三年間を通して計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に一年次を大切に、総合的な学習ともリンクして流れのあるものとする。
- (2) 高大接続改革に対する対応を強化する。ポートフォリオについては、e-ポートフォリオの認定取り消しといった変化があったが、調査書等での利用を考え、

引き続き運用していく。

- (3) 文理進学コースでのカリキュラム改編に伴う問題を検証し、前述の様なパラダイムシフトを行うことで、内発的動機付けを行い、国公立大学および難関私立大学合格数を増やす取り組みを行う。
- (4) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。

[2] 系列大学との連携強化

- (1) 1年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3年間を通じて計画的な進路指導を行う。
- (2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等を通して神戸芸術工科大学との連携強化を図る。

□入試・渉外構想

[1] 広報活動の強化

- (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。
- (2) 東大阪、八尾、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。
- (3) 中学校への出前授業が再開された場合には、積極的に引き受ける。
- (4) 学習塾担当の専従者がいることを活かし、学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾長対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。
- (5) 学校案内（パンフレット）作成にあたり、業者との連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。
- (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実する。With コロナ禍での、説明会のノウハウを蓄積する。
- (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。
- (8) 入試におけるネット出願を検討する。

[2] 専願受験者の確保

- (1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。
- (2) スポーツ専修コース3クラス90名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。また、魅力あるクラブとするため施設設備面での改善を進める。
- (3) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。
- (4) 改修した芸術I教室、放課後デッサン指導や学習指導、また、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。

[3] 女子生徒の確保

- (1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。
- (2) 改修しサニタリーボックスを設置したトイレや、什器の入れ替えなどを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。
- (3) 女子生徒に魅力あるクラブの増設を考え実行する。運動部では、陸上競技部・柔道部の他、剣道部への入部も視野に入れて募集活動を行う。また、文化部について検討していく。

□教員の研究・研修構想

[1] 教員の教育力向上

- (1) ここ数年実施してきた教員を指名しての公開授業（研究授業）は、予定通り1回目のサイクルを終了した。次の段階として、時間講師も含めた新たな計画を、企画立案し実施する。
- (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ研修会や常勤講師対象研修会は継続して実施する。
- (3) 特に注力したい分野についての外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。
- (4) 学校評価や授業評価を実施し、授業分析や授業改善の指針とする。
- (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止場の場、教科教育力向上の場として活用する。

[2] 教員組織の活性化

- (1) 職場の雰囲気は良く、教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織となりつつあるので、さらに安心して働ける環境づくりを行う。次の課題として、自由に自分の意見が発言できるよう会議等の進め方を研究する。
- (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行い、PDCAサイクルを意識する。
- (3) 年間を通して常勤講師研修会、年度当初に講師説明会を実施し、全先生方で同じスタンスで指導し、問題点を共有できるようコミュニケーションを取ることがを心がける。

[3] 変革する教育への対応

- (1) 令和4年度から年次進行で実施される次期学習指導要領について、新カリキュラムが確定したため、その実施に向け準備を開始する。
- (2) 2020年度実施の大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部を中心に対応を進める。ただ、英語外部検定試験の復活、教科「情報」の採用等、依然として不確定要素が大きいため、情報収集に努め適切に迅速に対応できるような体制をつくる。
- (3) ICT教育については、専用教室を設置し、現在行っている授業のモデル例として、各教科で有効利用できるよう検討していく。また、本校で策定した中期的計画を基に、普通教室や他の特別教室で実施できるよう具体化していく。同時に、オンライン授業、分散授業が実施できるよう対応に努める。
- (4) 主体的・対話的で深い学び、英語の4技能など新しい教育の方法論について、外部研修会を中心に学び、教科教育として取り入れていく。
- (5) クラブ活動の在り方について、学校方針（学校長方針）を検討し、提示する。
- (6) 公立高校のクラス定員減少化検討という流れを受けて、経営的には負担となるが35名の学級定員について、2021年度から、法人へ相談しつつ検討を始める。

□その他

[1] 保護者との連携強化

- (1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。本部役員と協力して、規約改正を行う。
- (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、一学期および二学期の年2回クラスで三者面談を実施し、一学期および二学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見てもらう機会とする。
- (3) 谷学ネットやホームページを家庭との連絡の手段として活用する。

[2] 地域との連携

- (1) クラブを中心に東大阪市民ふれあいまつりなど地域行事へ参加・協力をする。
- (2) 文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。
- (3) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。

[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携

- (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。
- (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。また、互いの行事へ参加できる企画を考える。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和3年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□学校生活全般</p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 男 84% 女 72%、保護者 88%、教員 78%) 参考) 昨年度 (76) (64) (88) (70)</p> <p>○「自分のクラスが楽しい」 肯定的回答(生徒 男 91% 女 79%、保護者 84%、教員 92%) 参考) 昨年度 (87) (82) (88) (91)</p> <p>【分析】</p> <p>「学校の雰囲気について」の質問に対して、保護者は約90%が肯定的な回答である。これは昨年度と大きな変化はない。教員の否定的な数値が昨年から10ポイント程度減った。しかし、女子生徒の約30%が昨年に引き続き否定的な数値となっている。女子生徒が過ごしやすい環境作りは共学化以来の継続している課題となっており、検証し改善する必要がある。</p> <p>「あいさつに溢れる学校」については、保護者ならびに生徒は、肯定的意見が多くを占めている。それに対して教員では約40%が否定的意見となっている。この意識の差が何から生じているものは検証していく必要がある。クラブ員を中心とした校内での挨拶習慣がある程度定着していると評価できる。生徒からの一方的な取り組みだけでなく、大人(教職員)から挨拶励行を継続することも重要であろう。</p> <p>学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、各学年ともに約85%が肯定的な回答が出されていることは評価できる。今年度も予定されていた学校行事が例年通りに行うことができなかつたにも関わらず肯定的な回答が出されたのは、日々の学習活動やクラス活動の充実の結果と言えよう。今後も生徒たちと学級担任とともにクラス活動を豊かなものにする努力を行っていくことが必要である。</p> <p>「コースの取り組み」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答であるが、教職員は否定的数値が高くなっている。これを改善するには、自分が所属するコース以外のコースのことも共有できるシステムづくりが求められるのではないだろうか。各コースの3つのポリシーが策定されたことは、どこに向かっていくのかのベクトルのわかりやすさにつながるものと思われる。</p> <p>「資格取得の多様性」は生徒、保護者、教職員ともに肯定的数値が多く出ている。ただ、各種検定の合格率は必ずしも上昇しているとは言えないのが現状である。各種検定への合格率の向上が、さらに肯定的なベクトルとなっていく。資格取得をメインに掲げているグローバル商大コースの充実にも繋がる項目であるので、教科のみでなく、学年の枠を超えて学校全体で考え、盛り上げていくことが急務である。また1年次から目標を設定し継続的にモチベーションを持たせることも必要である。</p> <p>「教員の教育熱心さ」については、生徒からは80%程度の肯定的な回答が出ており、保護者の意見も約90%が肯定的な意見となっている。普通の授業の取り組み、ICT等を駆使した生徒への指導、電話や面談などの個々の対応など、日々の各教員の取り組みの結果であると思われる。</p>	<p>＊新型コロナウイルス感染防止のため、令和4年3月12日(土)に実施予定であった「学校評価委員会会議」は中止となりました。</p> <p>→参加予定の各委員の方々に文章にて内容確認を行い、書面にて意見の集約を行いました。ご意見に関してましては、委員会の方々のご意見をそのまま掲載させていただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の雰囲気は良くかつクラスが楽しいと感じている生徒が多いのは喜ばしいこと。コースの取り組み、多様な資格取得、教員が教育に熱心に関して1、2年生は満足しているが、3年生がそうでないのが気がかりである。理想は学年が上がるにつれ満足度が増すのが望ましい。 ・やはり大人(教職員)からの挨拶(声かけ)をすることが大切だと感じる。 ・資料にもあるように、生徒自身も多数の保護者の方も本校に対して前向きな見方をしてくれている。しかし、本校教員の目線で見るとまだまだ満足できていない部分も多々あるため、生徒、保護者、教員全ての目を通じて本当に良い学校にしていけるよう、本校教員が努力していかなければならない。 ・学業に、部活動に充実した学園生活が送られるように尽力を尽くしておられました。
<p>□学習に関して</p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 男 85% 女 81%、保護者 85%、教員 89%) 参考) 昨年度 (79) (78) (84) (85)</p> <p>○「(生徒は)意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 男 78% 女 71%、保護者 75%、教員 43%) 参考) 昨年度 (71) (69) (75) (45)</p> <p>【分析】</p> <p>「授業のわかりやすさ」について、生徒間で各学年ともに約80%の肯定的な回答となった。昨年度よりわずかだがポイントは上がっている。大人(教員・保護者)においてもほぼ同じような結果となっている。今年度は「授業が解りにくい」等の意見、クラスによっては「(科目によって)授業中騒がしい場合がある」との声も聞いている。この声は毎年少なからず聞かれるものであるが、その声が0となることが学校として望ましい結果である。何を改善する必要があるのかを確実にとらえていかなければならない。そのためには形骸化しつつある授業アンケートの見直し、教科会での勉強会の充実、公開授業を利用しての学び合いなど今あるものの改善に取り組まなければいけない。今後、教科を中心として、わかりやすく、学んでいき易い環境を創造していくことも求められよう。</p> <p>「授業への意欲的な取り組み」は例年通り、生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。生徒・保護者も授業に意欲的に取り組んでいると思い、教員はそのように感じていない、その差異は、「意欲的」という言葉をどのように解釈しているかの差異のようにも思われる。教員が思うところの「意欲的」の取り組む姿勢がどのようなものであるかを具体的に示し、生徒・保護者と共有していくことが第一歩のように思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかりやすいと感じている人が多い。特に教員に顕著である。逆に意欲的に取り組んでいる点は教員に低い。これは教員サイドで検討する課題である。 ・生徒間で肯定的な意見が多かったことは良いことだが、無気力な生徒も多く、指導の複雑さ(難しさ)はさらに進んでいる。 ・まだまだ勉強に前向きになれない生徒も多いが、その中でもこつこつと努力を積み重ねて結果につなげている生徒の数も増えてきている。コースが行うリメディアルや「まな部」を通して、少しでも生徒も学習態度を前向きにし、それぞれが目標に到達できるよう指導していくことが重要であると考えられる。 ・グローバル商大コースにおいても難関大・国立大志願者が散見されるようになった。現在英語の「まな部」を担当しているが、春休みも講習会を実施し生徒達の実力も少しずつ向上している。また、週一回の講座だけでなく、その他週二回の課題を作成して生徒たちに取り組みさせている。1コマの取り扱いだが、労力はかなり大きい。
<p>□進路指導に関して</p> <p>○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 男 86% 女 80%、保護者 80%、教員 60%) 参考) 昨年度 (77) (71) (81) (64)</p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 男 92% 女 85%、保護者 86%、教員 80%) 参考) 昨年度 (86) (82) (88) (83)</p> <p>【分析】</p> <p>「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は肯定的なものが中心ではあるが、教員の回答はまだ否定的なものが多い。進路の合否だけでなく、真の学力をつけられたかどうか検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対応している。情報は適切に提供されているに関して生徒の支持が高いのは非常に良いことだ。 ・「テスト→スタディサプリ」の流れの中に、通常の授業をいかにリンクさせていけるかが課題である。 ・進路指導部からの案内や、各担任の努力で一定の進路確保はできているが、進路先が決定してあとの学習に向かう動機付けが弱く、2学期以降なんとなく時間が流れている雰

自己評価アンケートの結果と分析[令和3年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>証していく必要がある。そのために模試・学力テストなどのデータ分析、そしてそのデータの共有、教科へのフィードバック、改善策の検討、実施というサイクルが常に必要である。それらの作業が充実すれば、生徒・教員双方ともに肯定的回答が増加すると思われる。近年、スタディサプリを用いての学習および確認テストを実施しており、リンクさせている。このサイクルをさらに充実させれば肯定的回答がさらに上昇すると思われる。</p> <p>「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。今年度は大学入試改革2年目となり、コロナ禍による入試も2年目とあり、大きな混乱はなかったように思われる。これは正確な情報をタイムリーに提供されているからのように思う。今後もタイムリーに情報は提供されていく必要がある。</p>	<p>困気がある。今一度、教員全員で学ぶことの意味を生徒に投げかけていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報量が多すぎる。
<p>□生活指導</p> <p>○「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」 肯定的回答(生徒 男 86% 女 79%、保護者 84%、教員 93%) 参考) 昨年度 (82) (75) (84) (90)</p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 男 72% 女 62%、保護者 87%、教員 78%) 参考) 昨年度 (69) (59) (88) (80)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 男 81% 女 72%、保護者 90%、教員 39%) 参考) 昨年度 (74) (67) (91) (43)</p> <p>○「生活指導についての納得度」 肯定的回答(生徒 男 71% 女 61%、保護者 85%、教員 57%) 参考) 昨年度 (69) (54) (85) (62)</p> <p>【分析】</p> <p>「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者(生徒・保護者・教員)ともに例年通り、肯定的回答が大部分を占めた。学校方針でもある、日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。しかし、その中でも女子生徒の肯定的な回答が低いのは注視する必要がある。</p> <p>「学校の規則の妥当性」については、生徒間においては、否定的意見が30%近くにおよんでいる。特に女子生徒での否定的割合が依然高く(約40%)、例年と変わらない傾向が続いている。なぜ校則が必要なのか、粘り強く説いていくことが必要である。</p> <p>「生徒が規則を守っている」は例年と同じく、生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。多くの生徒が校則を守っているが、一部の校則を守っていない生徒に対する指導に多くの労力を費やしていることと、規則の解釈の差異もあるかもしれない。『指導する』側(教員)と『指導される』側(生徒)の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくために、なぜ校則があるのか、校則を遵守することがなぜ大切なのかを繰り返し説いていくことが必要である。</p> <p>「生徒は生活指導に納得している」については、生徒間においては、肯定的意見が約70%、否定的意見が約30%となっている。昨年度とほぼ変わらない結果となった。ここでも女子生徒の否定的意見の割合が男子生徒に比べて高くなっている。今年度は3学年とも否定的意見の割合が高くなった。</p> <p>「ベル着を守っている」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答であるが、教員の数値も肯定的回答が今年度は減った。「50分間しっかり授業を行う(受ける)」「授業第一」の意識が定着しかけていたものが、ここにきて薄れてきているのではないかの懸念がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が考えている程生徒は悩みを親身になって聞いてもらっていないと感じている。教員は大いに反省してもらいたい。規則に関しては妥当のようである。規則を守っているに関しては、生徒・保護者は甘く考えているようだ。教員はもっと厳しく指導すべきである。生活指導に納得しているに関して女子生徒の満足度が低い。女子生徒の扱いにキメ細やかさが必要である。 ・生徒と教員の結果に開きがあるのは仕方がないが、粘り強く指導をつづけるしかないと思う。 ・ブラック校則問題、都立の校則撤廃など、時代の流れから校則に対して否定的な見方が大勢を占めてきてはいるが、なぜ校則があるのか、必要なかを生徒に粘り強く指導していかなければならない。また、本校の校則が妥当なのか否なのか、常に精査する必要がある。 ・生徒と交流していろいろな話を聞く教員が減ってきているように思う。生徒達は「財産」とするという認識をもってほしい。
<p>□設備について</p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 男 56% 女 56%、保護者 70%、教員 24%) 参考) 昨年度 (51) (46) (71) (36)</p> <p>【分析】</p> <p>「校内施設設備」については、否定的意見が他の項目よりも多い。特に教員の否定的意見が8割近くに及んでいる。昨年度に比べ、否定的意見が増えているのはどういうことが原因なのかを検証する必要がある。その上で、校内施設改善は今後も計画的に進められていく必要がある。また、現存の施設の有効的使用および生徒の美化意識向上も継続して必要であろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備は整備されていないと感じている教員が多いのは気になる。学校は投資をして良好な教育環境をつくるべきだ。 ・「校内施設設備」については、生徒・教員の否定的意見の多くは、ICT、オンラインに関するものが多いと感じる。試験的にもオンライン授業を実施し、少しずつ拡大していかなければ、私学として取り残されると心配している。
<p>□その他</p> <p>○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 男 78% 女 69%、保護者 72%、教員 59%) 参考) 昨年度 (74) (61) (76) (63)</p> <p>○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 男 86% 女 83%、保護者 84%、教員 77%) 参考) 昨年度 (82) (77) (82) (83)</p> <p>○「入学して(させて)よかった」 肯定的回答(生徒 男 78% 女 69%、保護者 88%、教員 80%) 参考) 昨年度 (72) (68) (88) (81)</p> <p>【分析】</p> <p>「学校行事」について、1・2年に関しては肯定的意見が高く80%を超えている。それに対してコロナ禍において修学旅行の実施もままならず、様々な行事が中止となった第3学年の肯定的回答が60%程度となった。教員ならびに女子生徒の肯定的意見が他と比べて低いことも、その原因を検証する必要がある。</p> <p>「部活動」についても、肯定的回答が多数を占めている。ただし、活動施設の問題については多くの意見が寄せられているのが現状であるので、環境整備が肯定的結果へとつながっていくのではないかとと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「入学させてよかった」の項目ですが、教員の③が19%という意味が少しわかりづらかったです。コロナ禍で十分な活動ができなかったという解釈をしましたが、女子生徒も30%が否定的に捉えており、これは残念な(コロナ禍により)結果であったという、感想です。 ・行事に関しては満足度が高いし、部活動は活発で充実度は高い。 ・入学させてよかったに関しては保護者の評価が高いのは意外だった。 ・多数の生徒が学校生活を楽しんでおり、行事に関しても前向きに取り組んでいるのは大変喜ばしいことだが、やはりコロナウィルス蔓延における、黙食や各種の感染対策に息苦しさを覚えている生徒も多数いる。今は我慢するしかないが、日常が戻ったあかつきには、また前向きに学習活動を

自己評価アンケートの結果と分析[令和3年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>「入学して（させて）よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。特に2年生の肯定的意見が昨年度に比べ、大幅に増えている。修学旅行の実施も要因の一つであると考えられる。しかし、女子生徒の肯定的意見が男子生徒のそれと比べ低いことは注視しなければいけない。各学年に対して学校生活へのモチベーション向上への取り組みが必要といえよう。本校の募集活動にもリンクしていくことになるので、全教職員で取り組んでいかなければならない。</p>	<p>送る準備を積み重ねておくべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症の最中に、学生のために可能なかぎりの活動をされていたと考えています。 ・コロナに振り回されている状況だが、昨年の修学旅行は本当に良い思い出となり、生徒たち同志の交流も深まり大変意義のあるものだった。
<p>□情報共有・通学マナー・コロナ感染症対策について---*当該年度のみの設問</p> <p>○「さくら連絡網などによって、学校の情報は適切に伝えられている」 肯定的回答(生徒 男 77% 女 58%、保護者 95%、教員 96%)</p> <p>○「自転車や歩行の交通ルールを守って登下校している」 肯定的回答(生徒 男 76% 女 68%、保護者 93%、教員 28%)</p> <p>○「学校のコロナ感染症対策はされている」 肯定的回答(生徒 男 69% 女 63%、保護者 89%、教員 58%)</p> <p>【分析】</p> <p>「さくら連絡網」について、今年度今までの谷学ネットにかわって導入された。教員、保護者、生徒全てにおいて肯定的意見が多くなった。この連絡網の導入により、今まで生徒に配布しても保護者の手元まで届かなかったお知らせプリントなども保護者に直接配信できることで、学校からの情報がいきわたるようになったものと思われる。</p> <p>「通学マナー」について、地域の方から本校生の通学マナーの悪さについてのご連絡が年に何度となく入る。しかし、生徒は肯定的意見が多く、自分たちの実態を客観視できていない傾向がうかがえる。教員は圧倒的に否定的意見が多く、意識が乖離している。このあたりは、普段の教員の指導が今後も大切になってくると同時に、一部のマナーの悪い生徒が本校の通学マナーは悪いというイメージをつくっているのではないかとも思われる。また、新学期のはやい時期に通学マナーについて、共通の理解を得るような講話も必要と思われる。</p> <p>「コロナ感染症対策」については、肯定的意見が大半を占めている。何が正解かわからない中、教員の知恵を集結させて対策を講じた。生徒では、2年生の否定的意見が他学年より多いのは検証する必要がある。また教員の否定的意見が他よりも多いことは、さらにコロナ感染症対策を考えていく余地があることを示唆しているのではないだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は入学させて大変満足している。生徒は進路に関して納得して通学している。これらは良い環境が作られていると評価したい。教員サイドで設備の問題・生徒の学校の規則を守らせる点、授業がわかりやすいが意欲的に取り組んでいる点等について教員の自己改革が望まれる。 ・「コロナ感染症」において、生徒の33%が否定的意見というのは、たいへん多いと感じる。教員も40%を超えており、学校全体として反省すべき点である、消毒の徹底、職員室の密の回避、オンライン会議の実施、集会の禁止等、ガイドラインを作成すべきだった。 ・コロナ禍で、高校生活の全般的な様子が全くわからず、(大学よりは、日常があったと思いますが)、適切な評価ができず、申し訳ありません。 ・全ての人間が納得できる学校生活など理想にすぎないかもしれないが、学校評価を行うごとに、少しずつでも評価、満足度を上げていかなければならない。特に、我々教員も学校評価を行うことだけに慣れることなく、常に本校の学校教育を見直す心づもりをしておかなければならない。 ・今年度もコロナ禍でさまざまな取り組みに制限がかかった中、各項目について肯定的な回答が多かったことは評価できると思います。一方、同様に否定的な回答も一定数あったことは改善課題として検証が必要だろうと感じました。 ・風通しよく、良好な人間関係が何より大切です。本校存続のため教職員が働きやすい環境づくりを推進してまいりましょう。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下	
□ 学習指導構想	<p>[1] 生徒の学習状況の把握と対応 (1) 教科会及び教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、以後の授業に反映する。一年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。 (2) 主体的で対話的な学びに関し研究を深め、グループワークなどの導入を図る。 (3) 2019年度より実施している学力不振者への、入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を検証し、継続して実施する。</p> <p>[2] 教科教育活動の充実 (1) 授業内容を精選し、一時間一時間の授業を大切にす姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりとした知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、教科会で「思考コード」の考え方をういて考査の評価を行い、知識偏重から脱することを旨とする。 (2) グローバル商大コースを中心に実用英語検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。 (3) 学習指導要領改訂に伴う先行実施分について、既に家庭科等に対応しているが、実施状況を確認する。 (4) 既に導入済みのスタディサプリについては休校時の家庭学習教材として活用することができた。さらに、通常の授業時においても補助ツールとして活用していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科定期試験などのデータ分析 学力不振者への学期末補習実施 業者学力テストの有効利用 学力テストデータを基にしたリメディアル教育の実施 ベル即授業→50分間授業提供の徹底 各教科での「思考コード」の考え方をういての考査の評価を実施 「総合的な探究の時間」に対して各コースでの実施・検討 授業態度調査の実施 各種検定合格率向上およびそれに向けての学校全体としての取り組み 2年目としての「まな部」 	各教科定期試験データ分析を教務部中心に行う。教科会議においても議題とし、適切な成績評価につながるようした。	◎	
			学力不振者に対して、リメディアル教育および各学期末に欠点者補習を行った。	◎	
			業者学力テストについては、事前学習から事後学習まで実施できたが、スタディサプリの配信に留まったものの、自己採点は、早期に振り返りができ、次の学習へのモチベーションに繋がっている。	◎	
			ベル着の習慣がマンネリ化してきている。これは昨年度より現れてきている傾向である。(生徒アンケート調査の結果75%が「ベル着を守っている」との回答←昨年74% 一昨年93%)	△	
			発展的な内容を出題することに対して、大きな問題は生じていないものの、採点基準の難しさなど今後課題も残る。	○	
			各コースの特徴が現れるような「総合的な探究の時間」の内容をコースベースで検討したものを順次実施した。実施後の検討をかさねていった。	◎	
			授業への参加態度の生徒の個人差を把握するため、授業態度調査を行った。	○	
			◆◆各検定試験合格数について目標設定・評価◆◆		
			英検準2級→受検者数の60%合格	・英検準2級合格→合格96名 <受検397名>---合格率24%(昨年21%) *2級合格者27名となり昨年度の24名より微増となった。	○
			全商簿記検定2級→受検者数の50%合格	・全商簿記検定2級 →合格52名<受検236名> ---合格率22.0%(昨年25.7%) 昨年度より合格率が下降した。	△
ICTプロフィシエンシー検定(P検)の受検→3級合格	・P検→3級合格96名<受検数130名> ---合格率74%(昨年70%) *準2級合格者26名、合格率65%(昨年60%) *全商情処理検定3級合格者41名、昨年の21名より大幅増となった。	◎			
※昨年度よりも合格数や合格率が上昇したことは評価できる。ただし、簿記検定2級はわずかながら下降したのは、昨年度のコロナ禍の休校の影響も多少あるのではないだろうか。					
2年目となる「まな部」は、グローバル商大コース、デザイン美術コースの進学補習の位置づけとして実施	3年生 27名(国語11、英語16) 2年生 51名(国語25、英語26)が参加 3年生で自学自習のみで難関大学に合格する者もでてきた。	○			

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 生活指導構想	<p>[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成 (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続ける。つまり問題事象の発生を未然に防ぐ「予防的な指導」を目指す。特に自尊感情を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持つようとする。 (2) 教職員全員で、生活指導を行うという意識を徹底する。 (3) 校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。生活指導週間を有効に活用する。 (4) 改定した目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。 (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。 (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用やスマホ依存教育など社会人としてのマナーを養う講座を行う。</p> <p>[2] 帰属意識の高揚 (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。体育祭については、熱中症対策、雨天対策として、外部体育館利用の方向で検討する。 (2) 学年や自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。 (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行うとともに、校外での練習場所の確保、施設設備の改善、これに必要な予算措置など支援する方策を実施する。 (4) 北海道修学旅行を実施するが、多い生徒数を鑑みて、3班編成での実施を前提に計画する。また、本年度で旅行先変更後4年となるため、総括を行う。</p> <p>[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善 (1) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別支援教育コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。対象生徒の中学時の支援計画を参考に継続指導できるように中学校との連携を強化する。大阪府私立中学校高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座が開催された場合には、教員を派遣する。 (2) 不登校生徒に関する教務内規を見直した効果を検証する。また、新しいサポートルーム運営体制の検証を行う。カウンセラーの勤務時間を実態に合わせた形で調整する。 (3) 保健委員会を中心に発達障害や不登校生について生徒理解を深めていく。さらに、一学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の登下校指導だけでなく、教員全員で生活指導週間において登校指導を行った。 ・学年集会、コース集会などを通じて、マナー意識の徹底などを行う。 ・生徒対象マナーや性教育などの講演の開催 ・生徒の人権などを配慮した丁寧な指導 ・年間遅刻数目標を4000名以下とし、生徒指導部だけでなく、学年でも細やかな遅刻指導を行い、遅刻数減少への取り組みを行う。 ・生徒対象マナーや性教育などの講座の開催 ・スマホのマナー(朝礼～終礼時までの使用禁止、歩きスマホ、音だし等の禁止)に対して指導を行う。 ・生徒自治会を中心とした、各種学校行事への取り組み。 ・コロナ禍における北海道修学旅行実施に向けて、準備を行う。 ・修学旅行検討委員会を発足させ、北海道修学旅行の総括、ならびに今後の行先を検討 ・不登校生徒に関する新規内規運用 	<ul style="list-style-type: none"> 教員全員による登校指導の実施 学年集会、コース集会の実施 学校全体の年間遅刻数を4000名以下にする 性教育の実施 スマホマナーの徹底 各種学校行事への取り組み 北海道修学旅行準備 次期修学旅行の行先検討ならびに決定 課外活動の実績 不登校生徒認定に関して新ルールの定着 カウンセリング、不登校対策について 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への声掛けなどを行うことで、マナーや身だしなみの向上に繋がったと評価できる。 コロナ禍のため、大人数が集合しての集会ができない状態が続いたが、小グループに分けての集会実施など工夫を行い、生徒への啓発活動は一定行うことができた。 年間遅刻数4078名<昨年3258名・一昨年3646名>で目標数4000名以下を達成することができなかった。ここ数年4000名以下で推移していたが、ここで4000名以上となってしまった。遅刻指導をやりきる姿勢が大切である。 各学年で性教育を実施した。 普段より啓発活動を行っているにも関わらず、指導対象者が出てしまったことは残念である。 各種行事がコロナ禍の影響で中止、変更をせざるを得なかった。その中でも生徒自治会の立案に対し生徒が積極的に取り組めたと評価できる。 北海道修学旅行の準備が学年中心に進められ、無事に実施することができた。コロナ禍の中、無事に実施できたことは大きい。 修学旅行検討委員会のもと、現修学旅行の総括ならびに今後の行先について検討した結果、次期コース別修学旅行の提案にいたった。 柔道部の全国大会での活躍、漫画研究部のまんが甲子園への出場などが報告された。 昨年度から継続されている不登校申請に必要な書類から不登校委員会までの流れが定着し、申請から認定までがスムーズになった。 カウンセリング相談者数延べ人数は、214名(昨年度108名、一昨年度331名)で、対象生徒数は69名、対象保護者数は9名であった。新型コロナウイルスの影響が続く中、不安的な生徒も多く、昨年よりも件数としては大幅増となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ◎ × ○ × ○ ◎ ◎ ◎ ○

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 進路指導構想	<p>[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上</p> <p>(1) 三年間を通して計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に一年次を大切に、総合的な学習ともリンクして流れのあるものとする。</p> <p>(2) 高大接続改革に対する対応を強化する。ポートフォリオについては、e-ポートフォリオの認定取り消しといった変化があったが、調査書等での利用を考え、引き続き運用していく。</p> <p>(3) 文理進学コースでのカリキュラム改編に伴う問題を検証し、前述の様なパラダイムシフトを行うことで、内発的動機付けを行い、国公立大学および難関私立大学合格数を増やす取り組みを行う。</p> <p>(4) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。</p> <p>[2] 系列大学との連携強化</p> <p>(1) 1年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3年間を通じて計画的な進路指導を行う。</p> <p>(2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等を通して神戸芸術工科大学との連携強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの年間進路学習の立案 ・文理進学コースをはじめとする進路実績の向上、大学入学共通テスト受験奨励 ・『大学入学共通テスト』に対する研究、情報提供 ・文理進学コース3学期特別授業の実施 ・多様な進路に対する指導体制構築 ・系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化 	<p>学年ごとに目標に応じた進路学習の計画・実施</p> <p>◆進路実績向上への取り組み◆</p> <p>大学入学共通テストへの受験奨励</p> <p>文理進学コース3学期特別授業の実施</p> <p>ポートフォリオへの取り組み</p> <p>系列大学への進学について</p> <p>系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化</p> <p>就職希望者について</p>	<p>各学年での進路ガイダンスを実施、1～2年には進路学習として「スタディサプリ進路」のワークシートを課した。進路意識と情報を整理する作業の一連の流れを作った。</p> <p>試験出願数は60名と、昨年度の41名から増加した。8名が国公立大学に合格し、難関私大（関関同立産近甲龍）への合格数は46名、その他デザイン美術コース生徒が推薦入試制度を使用し国公立大学に合格した。</p> <p>例年、関関同立の一般入試と同時期に実施されていた卒業試験が特別授業になったことで、生徒の進路希望に沿った指導がしやすくなった。</p> <p>2020年度から始まったキャリアパスポートの活用を目指したがキャリアパスポートの提出も少なく、まったく活用できていない。</p> <p>大阪商業大学 107名 (27.5%) 昨年 24.5%</p> <p>神戸芸術工科大学 3名 (0.7%) 昨年 1.2%</p> <p>大阪商業大学の入試広報による説明会でのスライドやチャレンジテストに向けての講座のYouTube制作など、系列校連携入試を身近なものにしてもらったこともあり、連携は上手くいったと思われる。</p> <p>神戸芸術工科大学においてもデザイン美術コースを中心にきめ細やかな指導がなされたが、系列校推薦で受験生がなかったことは分析する必要がある。</p> <p>昨年度と違って求人者数(のべ500社以上)が増えた。就職希望者5名が全員内定をもらうことができ、きめ細やかな指導ができた。</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>×</p> <p>○</p> <p>◎</p>

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 入試・ 渉外 構想	<p>[1] 広報活動の強化 (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。 (2) 東大阪、八尾、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。 (3) 中学校への出前授業が再開された場合には、積極的に引き受ける。 (4) 学習塾担当の専従者がいることを活かし、学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾長対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。 (5) 学校案内(パンフレット)作成にあたり、業者との連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。 (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実する。With コロナ禍での、説明会のノウハウを蓄積する。 (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。 (8) 入試におけるネット出願を検討する。</p> <p>[2] 専願受験者の確保 (1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。 (2) スポーツ専修コース3クラス90名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。また、魅力あるクラブとするため施設設備面での改善を進める。 (3) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧な説明することで理解を得るようにする。 (4) 改修した芸術I教室、放課後デッサン指導や学習指導、また、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる</p> <p>[3] 女子生徒の確保 (1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。 (2) 改修しサニタリーボックスを設置したトイレや、什器の入れ替えなどを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。 (3) 女子生徒に魅力あるクラブ増設を考え実行する。運動部では、陸上競技部・柔道部の他、剣道部への入部も視野に入れて募集活動を行う。また、文化部について検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る。オープンスクールや入試説明会は全教員で取り組む ・学習塾への広報活動強化 ・入試相談ウィーク ・ネット出願の導入 ・中学校への出前授業積極的受入れ ・ホームページを用いた迅速な情報発信 ・スポーツ専修コース3クラス編成 ・全女子トイレに最新サニタリーボックスを設置ならびに改修を実施 ・デザイン美術コースによる食堂壁画 	<p>「オープンスクール」 「入試説明会」 「塾対象説明会」</p> <p>その他各種説明会の参加人数からの検証</p>	<p>コロナ禍により、予約制を導入。 <オープンスクール> ・第1回(329人) ---完全予約制で実施 ・第2回(330人) ---完全予約制で実施 ※計659人(昨年383組) <入試説明会> 今年度は3回実施することができた。(1回目:123組 2回目:179組 3回目:200組) いずれも予約制で実施。</p> <p><塾対象説明会>*H30年度より2回実施 66塾(昨年61塾) 外部説明会に参加をしない方針の塾も多く、数値の減少は仕方ないものと考えられるが、さらに魅力的な情報の提供に努める必要がある。</p> <p><入試相談ウィーク> 昨年度は、中止となった第3回入試説明会の代替えという位置づけで行ったが、今年度は通常の位置づけで行った。44組(昨年103組)が参加した。位置づけが異なるため、数値の単純な比較はできないと考える。個別相談形式であるため、きめ細やかな説明ができるので、本校の魅力をより伝えやすい。さらに充実させ継続する予定である。</p> <p><塾訪問> のべ訪問塾数は258塾(昨年度は712塾)と減った。これは専従の担当者1名が体調不良により退職したためである。地元の東大阪市・八尾市などを中心に訪塾した。重点塾には管理職(校長・教頭)が同行した。 ※各種説明会においても参加制限が設けられ、例年よりも数値的に減少した。</p>	○
	<p>ネット出願の導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への出前授業積極的受入れ 	<p>ネット出願の導入</p>	<p>本年度から導入したWEB出願システム“miraicompass”の導入で、出願に関してのみならず、各種イベントの申し込み、データ入力という膨大な業務の負担がなくなった。</p>	◎
	<p>出前授業への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを用いた迅速な情報発信 	<p>出前授業への対応</p>	<p>中学校への出前授業は6中学18講座。(昨年4中学13講座)</p>	×
	<p>ホームページを用いた情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ専修コース3クラス編成 	<p>ホームページを用いた情報発信</p>	<p>企画広報部を中心に、学校行事やトピックなど可能な限りリアルタイムでホームページに掲載した。</p>	◎
	<p>アスリート推薦スカウティングについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全女子トイレに最新サニタリーボックスを設置ならびに改修を実施 	<p>アスリート推薦スカウティングについて</p>	<p>アスリート推薦での受験99名(昨年度82名)前々年度が100名を超える結果となったため、90名前後を適正人数目標に渉外活動を行った結果、適正人数となった。</p>	◎
	<p>令和4年度入学試験の受験数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン美術コースによる食堂壁画 	<p>令和4年度入学試験の受験数</p>	<p>出願数 1066名(昨年1098名) 減 専願 328名(昨年309名) 増 併願 738名(昨年789名) 減 入学数 412名(昨年381名) 増 受験人口の減少期だけが原因にはならない。年間通じての渉外活動を検証し、改善していくことが急務である。</p>	△
	<p>デザイン美術コースによる食堂壁画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン美術コースによる食堂壁画 	<p>デザイン美術コースによる食堂壁画</p>	<p>食堂の壁面にデザイン美術コースの文化祭展示としての作品が描かれ、食堂に明るい雰囲気を醸し出している。</p>	○

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 教員の研究・研修構想	<p>[1] 教員の教育力向上 (1) ここ数年実施してきた教員を指名しての公開授業（研究授業）は、予定通り1回目のサイクルを終了した。次の段階として、時間講師も含めた新たな計画を、企画立案し実施する。 (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ研修会や常勤講師対象研修会は継続して実施する。 (3) 特に注力したい分野についての外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。 (4) 学校評価や授業評価を実施し、授業分析や授業改善の指針とする (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。</p> <p>[2] 教員組織の活性化 (1) 職場の雰囲気は良く、教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織となりつつあるので、さらに安心して働ける環境づくりを行う。次の課題として、自由に自分の意見が発言できるよう会議等の進め方を研究する。 (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行い、PDCAサイクルを意識する。 (3) 年間を通して常勤講師研修会、年度当初に講師説明会を実施し、全先生方で同じスタンスで指導し、問題点を共有できるようコミュニケーションを取ることを心がける。</p> <p>[3] 変革する教育への対応 (1) 令和4年度から年次進捗で実施される次期学習指導要領について、新カリキュラムが確定したため、その実施に向け準備を開始する。 (2) 2020年度実施の大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部を中心に対処を進める。ただ、英語外部検定試験の復活、教科「情報」の採用等、依然として不確定要素が大きいと、情報収集に努め適切に迅速に対応できるような体制をつくる。 (3) ICT教育については、専用教室を設置し、現在行っている授業のモデル例として、各教科で有効利用できるよう検討していく。また、本校で策定した中期的計画を基に、普通教室や他の特別教室で実施できるよう具体化していく。同時に、オンライン授業、分散授業が実施できるよう対応に努める。 (4) 主体的・対話的で深い学び、英語の4技能など新しい教育の方法論について、外部研修会を中心に学び、教科教育として取り入れていく。 (5) クラブ活動の在り方について、学校方針（学校長方針）を検討し、提示する。 (6) 公立高校のクラス定員減少化検討という流れを受けて、経営的には負担となるが35名の学級定員について、2021年度から、法人へ相談しつつ検討を始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の実施 ・ 校内研修（教務部・保健委員会）の実施 ・ 外部研修会への積極的参加 ・ 授業アンケート等の活用 ・ 教科会の充実 ・ 時間講師説明会の実施 ・ 次期学習指導要領に伴って導入される観点別評価の検討・試行 ・ 大学入学共通テストの研究 ・ ICT教育充実に向けての準備 ・ 外部研修会への参加 ・ クラブ指導の在り方についての検証 	<p>授業公開の有効活用</p> <p>校内研修</p> <p>外部研修会への参加</p> <p>授業アンケートの実施</p> <p>教科会議を通じての教授力向上</p> <p>時間講師対象の説明会実施</p> <p>次期学習指導要領への対応</p> <p>大学入学共通テストの研究および対応</p> <p>ICT教室の有効利用</p> <p>外部研修会への参加</p> <p>クラブ指導の在り方について</p>	<p>各教科全員の教員が授業公開を行った。見学する側も実施する側も刺激となり、授業の向上につながった。</p> <p>教務部主催の全体研修会は観点別評価に伴う授業改善の内容で実施。ミニ勉強会を6回実施。主体的に学び、成績アップのための授業研究会は5名8回実施した。また保健委員会主催でCPR・AEDの研修会は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。</p> <p>日本私学教育研究所主催の研修会にのべ3名参加した。（研修会自体、中止となるケースがほとんどであった）</p> <p>2学期中に授業アンケートの実施、レポートの提出を義務付けた。ただし、形骸化してきている部分も否めないため、より効果的に実施することを模索する必要がある。</p> <p>学力テストの結果を踏まえて（国数英）各教科で学力分析、今後の課題などの確認を行う。また評価の方法についても教科内で議論することが多くなってきた。単なる連絡会ではなく、教科学習の充実を討議する場になってきている。</p> <p>4月初旬に、全時間講師対象に学校方針の説明会を実施、理解を得た。</p> <p>次期学習指導要領に伴って導入される観点別評価を各教科で検討し、2学期に試行をおこない、問題点を洗い出した。</p> <p>文理進学コースを中心に大学入学共通テストの研究と各教科での準備を進めた。受験数も年々増加しており、高得点を取る生徒も予想以上におり、進路面での成果をあげた。</p> <p>情報の授業をはじめ、各教科、放課後授業、クラブ活動での動画チェックやオンラインミーティングなどで積極的に利用されている。</p> <p>12月に「主体的学びを科学する研究会」に2名参加した。英語4技能の研修会に1名参加予定であったが、コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。</p> <p>次年度より、スポーツ専修コース全学年「スポーツ演習」のコマをクラブ単位で実施することになる、現行のクラブ活動の在り方と比較することができるようになった。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>△</p> <p>○</p>

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ そ の 他	<p>[1] 保護者との連携強化</p> <p>(1) P T A活動へ教員全体で参画・協力する。本部役員と協力して、規約改正を行う。</p> <p>(2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、一学期および二学期の年 2 回クラスで三者面談を実施し、一学期および二学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見てもらう機会とする。</p> <p>(3) 谷学ネットやホームページを家庭との連絡の手段として活用する。</p> <p>[2] 地域との連携</p> <p>(1) クラブを中心に東大阪市民ふれあいまつりなど地域行事へ参加・協力をする。</p> <p>(2) 文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。</p> <p>(3) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。</p> <p>[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携</p> <p>(1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。</p> <p>(2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。また、互いの行事へ参加できる企画を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験結果の郵送 ・ 保護者対象授業公開 ・ メール配信の有効利用 ・ 東大阪市民ふれあいまつりへの参加 ・ 近隣自治会への協力依頼 ・ 学校評価委員会の開催 ・ 大阪商業大学附属幼稚園との連携 	中間試験結果の郵送	1 学期・2 学期の中間試験結果を各家庭に郵送、その他その時期毎の諸連絡も同封している。	◎
			保護者対象の授業公開について	11 月に期間を設けて行っているが、今年度はさくら連絡網を使って配信し、予約制にした効果があり、昨年度 10 名程度の参加だったのが、200 名程度となり大幅に増えた。	○
			メール配信の有効利用	年度当初に登録をお願いすることで、ほぼ全家庭に登録していただいた。欠席連絡や長期休みの前後における確認事項や各種行事の連絡など大変有効に活用されている。(学校評価アンケートより：保護者肯定的意見 95%)	◎
			東大阪市民ふれあいまつりへの参加	コロナ感染症の影響で、ちんどん体験の代わりに『You Tube』での配信を行った。好評であった。	○
			近隣自治会への協力依頼	学校評価委員会を開催することはできなかったが、近隣自治会(御厨南自治会)に「令和 3 年度学校評価まとめ」に対して書面でご意見を頂戴し、本紙に反映することができた。	◎
			学校評価委員会	(新型コロナウイルス感染拡大防止のために集合形式での開催はできなかったが、書面で回覧、意見を集約した。)	---
			大阪商業大学附属幼稚園との連携	デザイン美術コース 2 年生の幼稚園との『協力授業』については、新型コロナウイルス感染症の影響により、ビデオレター等、別の方法で実施した。また幼稚園での屋外行事(運動会、夕涼み会など)における本校グラウンドの使用にあたり、体育科およびグラウンド使用各クラブが調整、協力を行った。	◎